

ストック29年産も1億円突破 生産者大会開催

花き部会ストック専門部は2月5日、ストック生産者大会を開き、生産者や市場関係者、県JA役員など約40人が参加しました。齋藤勝彦専門部長は「昨年に引き続き、29年産は1億円を突破することができた。30年産も1億円を目標に頑張ろう」と呼び掛けました。

JA担当職員が販売経過について「販売金額は10月下旬の出始めから1月末の期間で1億558万円。出荷ピークは11月15日頃。販売単価は昨年の過去最高単価に続き2番目に高い単価を維持した」と報告しました。ストックの主要取引先である



▲30年産も1億円を目指そうと意気込みを話す齋藤専門部長

株式会社大田花きの田中薫営業本部切花仕入担当チームリーダーは「産地としてしっかり選別した品物を安定出荷してもらった」と評価。また、同社の販売方針について「顧客別に販売計画を持っていく」とした上で「花を一番購入する割合が高いのは食品スーパーで買い物する消費者。価格安定のために食品スーパーへ納品する業者の取り引きを増やし、小売りの需要を掘り起こしていくことが重要。顧客を意識した生産をしてほしい」と理解を求めました。

29年産は72人の生産者が面積583aで栽培しています。



▲消費地での販売状況に耳をかたむける生産者

プロ直伝の手作りみそを学ぶ マルノー山形がみそ作り教室



▲みそ作りのポイントを聞く参加者たち



▲「おいしくなあれ!」思いを込めてみそを練ります

蔵岡地区の住民自治組織「蔵岡まちづくり協会」は2月2日、蔵岡まちづくりセンターで「プロ直伝の手作りみそ教室」を開きました。(株)みどりサービスのマルノー山形職員を講師に、地区内の女性10人が参加しました。同協会は、地区内女性の交流を目的に各種講座を開いており、今回は初めて同社に講師を依頼。プロのみそ作りを学びました。

教室では管内産の大豆を親指と小指で潰れるくらいまで煮た後、機械ですり潰し、糶と塩が入った桶に入れ、塩水を入れてよく練ります。同社の渡部洋史課長補佐は「みそ作りは糶が命。ほしい」と話していました。

参加者は「昔はこの家でもみそを作っていたが、今ではなかなか作ることができない。きちんと作り方を勉強できる貴重な体験ができてありがたい」と笑顔を見せていました。

同社の高橋基義部長は「自分の思いを込めるとオリジナルの『マイみそ』になる。食べられるようになった後も熟成期間を置くことで味の変化を楽しんでほしい」と話していました。